

アーカイブ Data Report

NO. 64

(2021年1月5日)

〒500-8813 岐阜県岐阜市明徳町10番地 杉山ビル5F

E-mail: shikaku@npo-nak.com URL: https://npo-nak.com

NPO 日本アーカイブ協会・岐阜女子大学*・沖縄女子短期大学・学習システム研究会

(*岐阜女子大学デジタルアーカイブ専攻・研究所、沖縄サテライト校)

GIGA スクール構想とデジタルアーカイブ (2) ～コンテンツの記録・保管と学習活動での活用の発展～

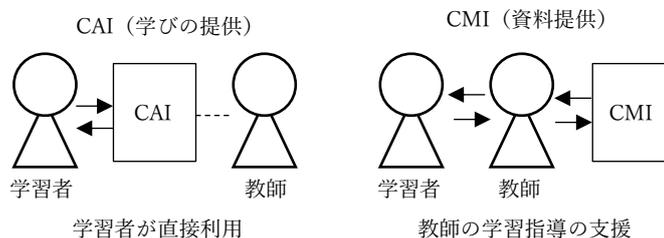
櫛 彩見、眞喜志 悦子、横山 隆光 (岐阜女子大学)、
新垣 さき、又吉 斎 (沖縄女子短期大学)

GIGA スクール構想として一人ひとりに適した学習コース(カリキュラム)を構成し情報端末等を用いて、確かな学びの実現が求められている。

コンピュータを用いた一人ひとりに適した学びの提供は、過去に大きく分けると、CAI (Computer Assisted Instruction) と CMI (Computer Managed Instruction) がある。

CAI は 1960 年頃から実践されだし、当時は、コンピュータプログラムに、教材、学習材、説明等を記録していた。このため、学びは学習状態(反応)に応じて記録されている決められた学習コースに限定されていた。

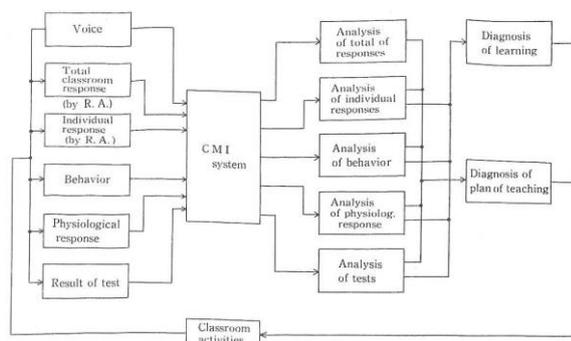
※CAI と CMI の学習指導での違い



(1) カナ、英数字等による CMI (教師に学習指導用の資料を提供)

CMI は、1970 年頃から日本では実践研究が進みだし、教材、評価問題や授業実践等の学習資料を記録・保管し、教師の学習指導の参考情報の提供がされていた。

当時の記録・保管資料は、①授業の言語活動 ②レスポンスアナライザによる授業での学習資料 ③教師、学習者間の授業(VTR 記録)の行動カテゴリーの分析結果(OSIA 等の行動カテゴリーを参考に) ④筋電など授業時の生理反応 ⑤



広瀬弘、森幸雄、後藤忠彦、成瀬正行”CMI システムについて”
岐阜大学教育学部研究報告 (1972 年 10 月)

テストの結果 などが保管されていた。とくに、問題や教材の誤りの傾向が学習システム研究会で教科ごとに組織的に調査・保管された。(これらの教育実践のデータは 1967 年から後藤、尚田等により開発・計測されてきた。) このような CMI システムが教育実践用として

